

第5学年 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・書く型を示すと意識して書くが、語彙力に個人差があり、書き進められない児童が少なくない。 ・覚えた漢字を積極的に使う児童と平仮名ばかりの文を書く児童の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いや学び合いの場を多く設定し、言葉の違いによる感じ方の違いに着目する学習を通して、語彙を増やし、言語感覚を豊かにしていく。 ・漢字練習と漢字テストの間違い直しを習慣化させながら、漢字で表現するよさや日常的に使うよさに気付かせる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを言葉で話すことはできるが、まとめることが苦手な児童が多い。 ・資料から読み取り、関連付けて考えることや読み取ったことから自分の考えをまとめることに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象を日常生活に置き換えて考えられるよう導入や資料提示を工夫をする。 ・資料から「分かること」と「考えたこと」を区別させ、見方や考え方の視点を明らかにし、課題を発見させていく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲が高く、進んで多様な考えを表現する児童と下学年の学習の復習から進める児童との個人差が大きい。また、作図の正確さに課題がある児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時に既習事項を十分に確認し、見通しをもてる学習展開を行う。作図の作業については、個別の指導を通して、改善点を明らかにして指導していく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察に関しては意欲的ではあるが、実験によって得られた結果を考察にまとめることや知識として理解を深めることに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視点を明確にし、予想を立てさせながら、観察や実験を進める。 ・実生活や学習体験を基にしなが、結果をもとにした考察を行うように指導し、知識の定着・思考力の向上につなげる。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・技能の高い児童が多い。ただし、巧みな動きが苦手な児童も多い。 ・役割などの約束を守ろうとする意識が薄い。 ・励ましたり、助け合ったりしながら運動しようとする児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを活用し、自分のめあてをもち、振り返りをして次時につなげる。 ・教え合いや作戦・振り返りタイムなど話し合う時間を確保して、交流活動を多く取り入れ高め合えるよう指導の工夫をしていく。 ・約束を守ったり、助け合ったりすることの大切さを指導し、主体的に学習に取り組む態度を養う。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のこととして内容項目について考え、話し合いができる。短時間に自分の考えを書いたり、理由を添えて話したりする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容に照らして自分自身を見つめ、自分の考えをもたせるようにする。 ・ペアや班・全体での交流活動を多く取り入れ多様な考えから再考し考えを深め、道徳的価値を養っていく。

第6学年 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の意見を関連づけて自分の意見を述べる力が不足している。 ・ 起こった出来事や事実、それに対する自分の考えや気持ちも少しずつ具体的に書けるようになってきたが、組み立てを考え、効果的に表現する力が十分とはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話型を提示し、お互いに意見を聞いて比較しながら自分の考えを伝え合うよう指導し、話し合いの機会を多くもたせる。 ・ 文章の組み立てを意識できるようなプリントを継続的に活用し、組み立ての良さに気づけるようにする。 ・ 分からない言葉は自分から進んで辞書を引いて調べるよう促す。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調べ学習では、意欲的に調べ、ノートにまとめているが、資料を深く読む児童と表面的にしかとらえられない児童との差が大きい。 ・ 学習したことを社会的思考へと結び付け、自分の考えを表現する力をつけさせていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の中から必要な情報を得るために、具体的な課題提示や教材の工夫を行っていく。 ・ 時代背景や人物に対して、具体的なイメージをもって学習に取り組めるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力差が大きい。新しい事柄を学習すると、今までに学んだことを忘れてたり、また混同したりしてしまう児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通常の授業やベーシックタイムを通して、復習の機会を多く設けるとともに、新しく学ぶ事柄については、内容を精選し、スモールステップで学習を進めていく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮説や考察など自分の考えをノートに書くことができるようになったが、話し合いによって自分の考えを深めようとする意識とスキルが不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループでの話し合いを活性化させるための基盤を整える。「児童全員がお互いの考えが分かるようにすること。」を目標に加え、話し合いに信憑性をもたせる。話し合い後に考えを再度書かせたりすることにより、個人の思考力を高めていく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・ できることを、さらに高めようとする意欲が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童にあったステップを常に考え、達成感を味わわせ自信につながられる環境を作る。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまなテーマに自分なりの考えを巡らせ、自分自身を振り返りながら、諸課題への実践力が身に付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートやホワイトボード・気持ちメーターなどの教具の工夫を図り、十分に自分をふり返り、考えをもたせるようにする。 ・ 交流活動を多く取り入れることで多様な考えに気付かせ、道徳的価値を養っていく。